

# 共育の丘だより 第8号 2017秋

山口大学 大学教育機構 大学教育センター ニュースレター



「山口大学は、教えるだけの教育ではなく、

教員と学生、あるいは地域と一体となって

発見し・はくくみ・かたちにすることで共に高め合い、

未来を拓く『共育』を目指しています」

『2014 山口大学案内』より

共育の丘（山口大学 吉田キャンパス）

## 巻頭言

本学では今春、全学的に（設置・改組で学年進行中である学部等を除く学部・研究科で）ディプロマ・ポリシー（DP）、カリキュラム・ポリシーの改訂を行いました。それに伴い、教育改善FD研修会を各学部・研究科で開催し、カリキュラム・マップ、カリキュラム・フローチャートの改訂作業を進めているところです。カリキュラム・マップはそれぞれのDPが、どの授業でどのように達成されるかの関係を一覧表にしたもので、カリキュラム・フローチャートはカリキュラムの年次進行とDPの関係を流れ図として示したものです。これらによりカリキュラムと個々の授業との関連、授業同士の結びつき、個々の授業の役割が見えてきます。

このカリキュラム・マップ、カリキュラム・フローチャートの改訂作業をはじめとして、ナンバリング、YU CoB CuS やe-ポートフォリオ、ルーブルックの導入と活用、情報処理関係授業の改訂、「新しい共通教育」の検証、やまぐち未来創生リーダー（YFL）育成プログラムへの対応等々を進めていく予定です。「計画のグreshamの法則」に陥りがちな日々ですが、減り続ける大学予算のなかにあっても学生の力になるよう、教育を如何に維持発展させていくかを常に考えながら取り組んでいかなければと思っています。

（菊政 勲 山口大学 大学教育機構 大学教育センター長）

## INDEX

- P1 巻頭言
- P2 大学教育センターの動き
- P3-4 学生FDサミット2017夏 参加記
- P5-6 「アートふる山口」活動レポート
- P7 新任教員紹介&やまぐち探訪記
- P8 編集後記

【※本ニュースレターは、（公財）山口大学後援財団「学生の就職支援・教育環境の改善等助成事業」の支援を受け、編集・刊行しています。】

# 大学教育センターの動き

## FD・SDとは？

### はじめに

FDはFaculty Developmentの略称で、「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組」を指します。SDはStaff Developmentの略称で、「事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組」を指します(中央教育審議会答申・用語集より)。

## カリキュラム・マップおよびカリキュラム・フローチャートの改訂作業始まる！

毎年度各学部・研究科主催で開催している教育改善FD研修会の平成29年度のテーマは、「カリキュラム・マップおよびカリキュラム・フローチャートの見直しについて」です。教育改善FD研修会では、まず、平成26年12月の中央教育審議会答申（高大接続答申）において、改めて、3つのポリシーの一体的な策定が求められるようになり、平成27年度には中央教育審議会大学分科会大学教育部会での検討を経て、平成28年3月末に、学校教育法施行規則の一部改正による3つのポリシーの公表義務化、さらには、『卒業認定・学位授与の方針』（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン』が提示された経緯を改めて説明しました。これに対応し、学内では、ディプロマ・ポリシー等検討ワーキンググループを設置して、当該ガイドラインに基づき、3つのポリシーの改訂を行った旨の説明を行っています。特に、ディプロマ・ポリシー（DP）とカリキュラム・ポリシー（CP）の一貫性の確保が重要であるとの言及を行いました。



次に、カリキュラム・マップおよびカリキュラム・フローチャートの意義や構成内容について説明を行い、今回の3つのポリシーの改訂に伴い、改めて、既存のカリキュラム・マップおよびカリキュラム・フローチャートの改訂を依頼する趣旨を説明しました。

その後、カリキュラム・マップの「○付け作業体験」と題して、配布されたカリキュラム・マップ様式に従い、参加教員各人が担当授業科目の到達目標と所属学科のDPを確認しながら、DP達成のための寄与（貢献）度について「◎、○、△」を記入するワークを行いました。このことにより、参加教員一同、所属学科のカリキュラムにおける担当授業科目の位置づけやDPとの関係性について理解を深めました。

## 平成29年度全国大学教育研究センター等協議会にて、本学の教育質保証の取組を事例紹介！

平成29年9月14日（木）・15日（金）の2日間、徳島大学にて、平成29年度全国大学教育センター等協議会が開催されました。初日の教育質保証の取組に関する事例紹介では、大学教育機構大学教育センター 林 透 准教授より、「山口大学における教育の質保証の変遷 ～Paradigm Shift from Teaching to Learning～」と題し、平成24年度の中央教育審議会・質的転換答申を経て、本学における教育の質保証がTeaching重視からLearning重視に転換し、文科省・大学教育再生加速プログラムによるAL型授業の拡充や国立大学機能強化経費による学修成果可視化の取組などを紹介しました。

# 学生FDサミット2017夏

～IN 金沢星稜大学～



「学生FDサミット2017夏」が石川県の金沢星稜大学で8月31日（木）、9月1日（金）の2日間にわたって開催されました。学生FDサミットは、よりよい大学づくりのため、学生自らが授業やその地域に根差した活動などを考える場であり、また、そういった活動について意見や情報を交換する場でもあります。第15回目となる今回は、全国各地から37大学、学生・教員あわせて200名以上もの人々が金沢星稜大学に集結し、山口大学からは学生2名、教員1名が参加しました。

今回のテーマは「みんなで考える理想の授業～温故知新！学生FDの今昔から～」ということで、学生FDの歴史について知ること、そして新しい取り組みについて考えることの2点を中心としてタイムテーブルが組まれていました。学生FDサミットの歴史や概要、学生FD活動の体験記が語られた講演会や、学生FDサミットに関するテストなど、「知識として知る」という活動もしっかりありましたが、「新しく創る」ためのグループワークが2日間の主だった活動でした。具体的には、グループに分かれて、「地域」「地域連携」「自校理解」の3つのキーワードに焦点をあてたシラバスを作成し、発表する、といったプログラムでした。シラバス作成では、授業名から授業意図、内容、単位取得の評価方法、または大学名とその大学の設定なども考えねばならず、どのグループも時間ぎりぎりまで活発に議論をかわしていました。また、1日目の終わりには懇親会があり、他大学の学生がどのようなFD活動を行っているのか様々な話を聞くことができました。

学生FD活動のこれまでの積み重ねを知り、これからの新しい取り組みについて考え、議論する…まさに、「温故知新」というテーマに相応しい2日間でした。何より、他大学の学生や教員とも交流を深めることができたので、この「縁」を大切にこれからはもっと連携・協力していきたいと思いました。

（人文学部2年 堀井さやか）

## タイムテーブル

〈1日目：8月31日（木）〉

13：00 オープニング

14：00 講演会

15：20 しゃべり場①

18：00 懇親会

〈2日目：9月1日（金）〉

9：30 学生FDサミット統一テスト

10：30 しゃべり場②

14：15 グループ発表

15：15 クロージング



学生FDサミット2017夏  
in 金沢星稜大学

みんなで考える理想の授業  
～温故知新！学生FDの今昔から～

日程

8/30(水) 前夜祭  
星稜大学は金沢が誇る大学です  
金沢学生のまち市民交流館

8/31(木) サミット1日目

9/1(金) サミット2日目

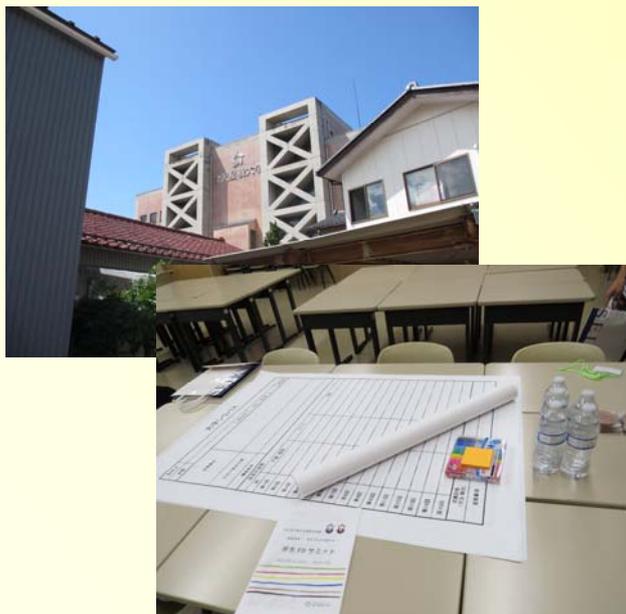
より良い教育改善  
大学活動について  
考えよう！

問い合わせ先  
gakuyuukai\_seiry@yahoo.co.jp

# 参加者からの便り

## 人文学部2年 堀井さやか

私は今回のFDサミットに2年で初参加ということで、不安や緊張もありましたが、講義は学生FD活動に詳しくない初心者にも分かりやすく、他の取り組みにも楽しんで参加することができました。また、多くの大学の学生との交流により、普段とは異なった視点から大学や地域社会について考える機会が得られました。やはり、学生同士の交流は、大学のこれからを考えていくうえで欠かせないものだと感じました。今回築いた関係をこれからも何らかの形で生かしていけるよう、様々なことに取り組んでいきたいです。



## 人文学部2年 廣本明日香

私は今回が学生FDサミットに初の参加でしたが、そこで出会った学生皆が自分たちの手で大学をより良くしていこうと意欲的に取り組む姿勢にとっても刺激を受けました。特に二日間にわたり行われたシラバスを作るグループワークでは、それぞれの学校で実際に行っている活動やもっとこういう大学になってほしいといった願いなどからヒントを得ていき、多様な意見に互いに刺激を与え合いながら作成していききました。教職員の方も必ずグループにおり、実現可能なシラバスを組み立てるにはどうすればいいのか、教員目線のアドバイスなどもらいながら作り上げることができ、学生と教員とのシラバスのとらえ方の違いなどにも気づくことが出来ました。たくさんの新しい考え方や取り組みに触れることができた、とても貴重な二日間だったと感じています。

しかし、ここで一番大切なのはこの経験をこれからの繋げることだと思います。私たち山口大学で今回の経験をどう応用し活かしていくのか、周りを巻き込みながらどんどん新たなことにもチャレンジしていきたいと思っています。

# 「アートふる山口」活動レポート

平成29年10月8日（日）に開催された、第22回アートふる山口において、学生スタッフが「謎解きまち歩きラリー」を企画・実施しました（内容は参加者が会場内4か所に設置された玉手箱を探し、お土産をもらうというもの）。

これは今年2月に行われた「やまぐち・まちなかプロジェクト（サービスマーケティング編）」で大殿地区の方々と交流した際に「単発のイベントとして終わるのではなく、継続的に関わってほしい。」という地域の方々の声を聞き、自分たちの手で地域に関わることがしたいと思い、山口市歴史民俗資料館の方と共同で企画したものです。初めての試みで不安もありましたが、子どもからお年寄りまで220人以上の方に参加していただき、中には外国の方もいらっしゃいました。玉手箱を見つけて喜んでいる家族、汗だくなって玉手箱を探す少年、ゴールを見つけて満面の笑みを見せニコニコしながらお土産を選ぶ子どもたち、山口市観光PRイメージキャラクターのおおちゃん、うっちーと笑顔で写真を撮る子どもたちを見たり、参加された方から「枯山水のところの玉手箱を探すのは難しかった。」などと

笑いながら感想をいただいたりして自分たちがゼロから考えた企画でこんなに多くの方を笑顔にすることができるのだと感ずることができました。このスタンプラリーは玉手箱を置く場所を大殿地区の歴史ある場所、有名な場所にし、おみやげもアートふる山口オリジナルのものにしたりと、大殿地区独自のスタンプラリーにし、まさに大殿地区を盛り上げる、大殿地区をたくさんの人に知ってもらうため私たち大学生が精一杯考えた企画です。この企画を無事に終えることができたのは学生の力だけではなく、多くのアドバイスをくださった大殿地区の方々、共同して活動してくださった山口市歴史民俗資料館の方のおかげです。地域・社会の方と一体となって一つのことをやり遂げることは普段の大学生活では体験できないことなのでとても良い経験

をすることができました。

## アートふる山口の内容

- ・おもてなし館巡り  
見るアート 買うアート 食べるアート 体験アート
- ・謎解きまち歩きラリー  
おおちゃん＆うっちーの時間旅行
- ・主催イベント  
茶道体験～自分で点てみよう～  
こねて！かいて！陶芸体験！
- ・赤レンガでのステージイベント
- ・同時開催イベント  
体感！実感！クラフト展など



アートふる山口全体については同日に県内各所で様々なイベントが行われるということで少し不安もありましたが、晴天にも恵まれ、多くの方々にお越しいただきました。橋から川へと垂れ下がる鮮やかなさを織りをはじめとし、道端には着物を着た方がいたり、人力車が走ったり、軒先では各点がイベントをしたりいつもの町並みも着飾ることで普段の住空間から町全体が一つの展覧会になったようでした。

（経済学部3年 香川万由子）



# 「アートふる山口」活動レポート

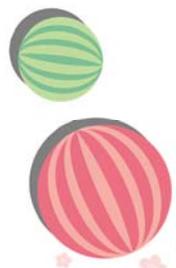
「謎解きまち歩きラリー」に関わってみて

私が今回関わらせていただいた「謎解きまち歩きラリー」は、学生と山口市歴史民俗資料館が共同で企画・実施しました。多くの人にまち歩きを通して、大殿地域の良さを再発見し、その魅力を知ってもらいたいという思いから生まれました。大殿地域の住民の方にも協力していただき、私たちが最初に考えていた以上の企画をつくりあげることができました。当日は子どもからお年寄りまで幅広い年代の方がラリーに取り組みしていました。ある参加者の方が、「普段自分が行くことのない場所に行くことができ、新しい発見があった」とおっしゃっていたことが印象的で、普段見慣れている風景の中にも、見過ごしがちな発見があり、それがいかに貴重なものであるかということについて改めて考えさせられました。

私はこの半年間を通じて実行力を身につけることができました。普段の大学の講義では知識や理論を学ぶことが出来ませんが、実際に問題に直面した時、どのように解決していけばいいかという手順は教えてくれません。答えがあらかじめ用意されているわけではないので、自分たちで答えを導く必要がありました。仲間と協力して調査や分析を行うことで、問題点を明確にすることができました。特に重要なのは、地域の方の意見を聞くことだと思います。地域の方は、“地域の専門家”でしたので貴重なアドバイスをいただくことができました。この企画に関わって得られたことは今後の大きな糧になると思いました。

最後になりますが、私たちの活動が今後、学生と地域を繋げる架け橋となり、地域活性化のきっかけとなれば嬉しいです。

(人文学部4年 矢田萌佳)



# 新任教員紹介

## 篠田 雅人 助教(特命)

今年の7月1日に大学教育機構大学教育センターに着任しました助教の篠田雅人です。山口大学が3つ目の勤務先になります。前職である私立学校の事務職員時代に、社会人学生として大学経営や高等教育政策を学ぶ大学院で学んだことがきっかけで、研究者に転身することになりました。学習成果検証（主として「人文科学系学士課程教育の学習成果検証」）や大学職員論（主として「大学経営人材の養成」）を中心とした高等教育論という分野を研究分野にしています。ちなみに、前職では、大学教育の改善に資するためのIR活動やFD・SD活動の推進、私立大学向けの教育改革や研究助成補助金の獲得、高大連携事業や入試改革に向けた学内議論の推進に尽力してきました。

高校時代の修学旅行で下関（どうしてもぶぐ刺しを食べてみたかった…）・防府天満宮（日本の三大天満宮を制覇したかった…）を訪れて以来の山口県ですが、今となってみれば、当時から何かのご縁があったということでしょう。また、プロ野球観戦が趣味で、名古屋に縁がりがあるというわけではありませんが、中日ドラゴンズを30年超応援しています（カープ・ホークスも好きですけどね）。どうでもいい話ですが、特技はボウリングです。

山口大学では、大学教育再生加速プログラム（通称「A P 事業」）の推進、特にエビデンスベースの学内議論を進めることができるよう、様々なデータ分析に基づいた学修成果の可視化に向けた活動を担当していきます。普段は吉田キャンパスの共通教育棟2階にあるY U - A P 推進室に在室していますので、興味のある方は気軽に訪れてみてください。よろしくお願いします。



## やまぐち探訪記 第八回（岩国）

山口県の特徴は、各市町が特色ある歴史文化や特産品を持ち、独自の風土を醸し出している点にあります。今回のやまぐち探訪記では、そんな山口県東部の代表都市「岩国」を訪ねてみました。毛利三家の一つ、吉川家が領主を務めた場所で、錦川の美しい清流を備えた城下町です。明治維新の時代に、一時期、「岩国県」と称したことにも、岩国の特殊性が感じ取れます。



錦川に架かる錦帯橋はあまりにも有名ですが、木造橋のスケールの大きさと景観美には圧倒されます。錦帯橋をモチーフにした日本酒「五橋」は地元で愛されています。最近では、岩国に酒蔵を持つ「瀬祭」が有名ですね。

錦帯橋を渡る、その先には、岩国城が聳え立っています。かつて、一国一城令に基づき、お取り潰しにあった城が今再現されています。岩国城がある頂から眺める岩国城下や遥か瀬戸内海の眺めは壮観であり、この岩国の町が重要な要所であったことが見て取れます。ぜひ、一度は訪れてみてください。

やまぐち探訪の旅は、まだまだ続きます。





# 学生スタッフ募集!



オン・キャンパスでジョブ  
オフ・キャンパスでチャレンジ

## Our Works!

**共育ワークショップ**  
山口大学の教育(共育)について  
学生・教職員が一体となり共にはぐくむ場  
年に一回開催!

**共育の丘だより**  
大学教育センターでの  
活動や広報のため  
年に二回発行!

**山口大学・大学教育再生加速プログラム  
(YU-AP)推進事業**  
2014年秋に採択された全学を挙げての事業  
学生・教職員が協働して推進!

**SLPの開発**  
Student Leader Program  
リーダーシップ養成  
学習相談会(ピア・サポート)  
キャリア学習会(就業力支援)...

学生向けの  
新・正課外教育プログラムを  
教職協働で創造!

**学生FDサミット**  
全国を飛び回って大活躍中!!

学生FDサミット2017春  
山口大学  
17/3/2-3

オン・キャンパスでジョブ  
学修到達度テストの補助業務  
学内企画イベントの補助業務  
オフ・キャンパスでチャレンジ  
学生FDサミットに参加して他流試合  
山口市・長門市・周防大島などの体験学習

### Contact!

YU-AP推進室  
TEL:083-933-5261  
E-mail:yuap@yamaguchi-u.ac.jp



大学教育センター 林 透  
083-933-5067



林 透(担当教員)  
toru-h@yamaguchi-u.ac.jp



<http://www.epc.yamaguchi-u.ac.jp/>

## 編集チーム

林 透  
(大学教育センター准教授)

篠田 雅人  
(大学教育センター助教(特命))

伊藤 千恵美  
(教育企画係)

## 学生メンバー

矢田 萌佳 (人文学部4年)	原 きく乃 (人文学部1年)
香川 万由子 (経済学部3年)	杉本 寛晟 (経済学部1年)
廣本 明日香 (人文学部2年)	大亀 洋輔 (理学部1年)
堀井 さやか (人文学部2年)	生島 歩 (工学部1年)
岡 寛範 (経済学部2年)	藤井 聖也 (工学部1年)
川田 海榮 (経済学部2年)	松瀬 可葉子 (農学部1年)
大谷 有紀 (農学部2年)	谷崎 絵美里 (農学部1年)
高松 風果 (農学部2年)	
増田 雅也 (国際総合科学部2年)	

## 編集後記

この度の共育の丘だよりの編集で半年間を振り返りながら、様々なことが印象に残りました。学生FDサミットに参加した学生たちは講演会などで知識を吸収し、グループワークでシラバス作成などの活動を行い、初参加ではありながらも学生FD活動にしっかりと取り組んできたことはとても印象に残りました。またアートふる山口での地域活動においては、大学生の活躍が地域の人たちを喜ばせることができ、とても良い経験になったのではないかと思います。今回新メンバーも加わりました。皆さんの支えになれるよう頑張りたいと思います。

(教育企画係 伊藤千恵美)

## 発行:

大学教育センター  
(2017年12月13日 発行)

大学教育は、大学教職員、学生、地域をつなげます